

1. 研究主題

なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成

2. 研究の具体

本校は、過去3年間のデータでは、「不登校」、「いじめ認知」、「暴力行為」について減少することなく一定数で推移している。しかし今年度は、不登校者数の大きな増加が予想される。「いじめ認知」については遊びの延長線上でいじめへと発展した件数が52%と最も多く、学校の教職員等による発見が53%と半数を超え、本人やその保護者からの訴えで発見されるSNSを使ったいじめもみられる。「暴力行為」については、生徒間暴力がほとんどで、自分の感情をコントロールできずに暴力で解決しようとする生徒が多い。そこで、この3つの課題を解決するために、「I部会」、「N部会」、「W部会」の3つの部会を立ち上げ、研究推進を行っている。

■ 研究推進3部会による研究推進と取り組みの具体例

<p>① いじめ等のない安心して学べる学校づくり プロジェクトI 「いじめゼロ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>いじめを許さない 正義の学校</p> </div> <p>☆正義の気風を生む取組を生徒が主体的に行う仕組みづくり</p>	<p>② 心の小さなSOSの早期発見・早期対応 プロジェクトN 「ここにこ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>魅力ある学校 —居場所づくり—</p> </div> <p>☆SCとの連携を図り、人間関係づくりの手法を用いた授業づくり</p>	<p>③ 生徒が不登校とならない魅力ある学校づくり プロジェクトW 「わくわく」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>安心・安全の学校 —絆づくり—</p> </div> <p>☆自己有用感を高めるわくわくする活動づくり</p>
--	--	---

【I部会】
「いじめゼロ特別月間」



【N部会】
「はあ?っていうゲーム」



【W部会】
「兄弟学級挨拶ボランティア」



3. 研究の検証と改善の手立て

○ 3部会の活動を通して、生徒の意識の変化が見られるようになった。I部会では、各学級の人権宣言を学期ごとに振り返ることで、2学期後半になるにつれて大半の生徒が意識して学校生活を送れるようになっていく。N部会では、各学年の発達段階に合わせて様々なソーシャルスキルトレーニングを行っている。授業後には、「自分の思っている感情を表情と声だけで表現することは難しかったが、それが伝わったらとても気持ちよかったです。日常でも相手に自分の思っていることが分かりやすく伝わるように努力したいです」など自分の思いが伝わらない難しさやもどかしさを感じながらも、伝える大切さを感じて、日常生活にも生かしていこうとする振り返りが見られた。また、W部会のボランティア活動では、多くの生徒が積極的に活動に参加している。そして生徒主体のボランティアも考案され、やりがいをもって活動できている様子が振り返りからもうかがえた。

● 今年度からの活動であるため、日常生活で顕著に効果が表れているとは言えない。校内では、「いじめ認知」につながるような行為やコミュニケーション不足によるトラブルも引き続き見られる。今後、3部会での活動を継続して行っていき、生徒の行動の変化につなげることで、明日も行きたくなる学校づくりを推進していきたい。